

平成 26 年 8 月 26 日 (火) 朝刊 14 面

リゾート施設を利用できる会員権の価格が上昇している。リゾート会員権の流通市場では、平均価格が前年を1割以上上回る推移が続き、じり高となっている。景況感の改善を追い風に、購入意欲が高まっており、人気が高い施設の会員権には順番待ちの状態となっているとの指摘もある。

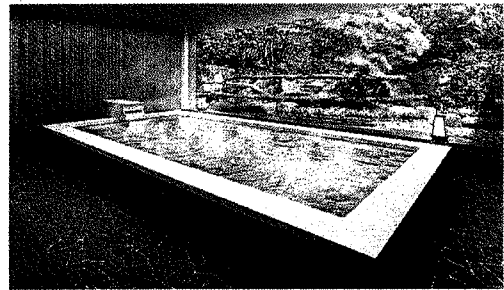
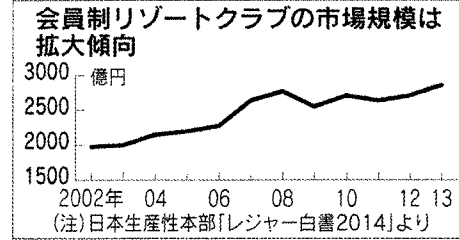
仲介大手のe会員権(横浜市)がまとめた主要な仲介業者のデータによると、7月の平均価格は189万円となった。前月比で2・7%(5万円)、前年同月比では14・5%(24万円)高い。3月までは消費税をにらんで前倒しで買った動きが強まり、4月以降は反動減が予想された。しかし、実際には買い希望が売り希望を上回る状況が続いている。

リゾートトラストの「エクシブ藝科EバージョンZ」の会員権価格は270万円となり、前月に比べて100万円上昇した。東急リゾート(東京・中央)が運営する「東京ハーヴェストクラブ」の「那須」(栃木県那須町)は385万円で5万円上昇し、「浜名湖」(浜松市)も100万円で30万円値上がりするなど、底堅く推移する。

一方、人気が高い鴨川グランドホテルの「鴨川リゾートクラブ」や軽井沢の施設の会員権は売り希望が見当たらず、価格は高値に張り付いている。

e会員権の涌井智子社

# リゾート会員権、上昇続く



新規施設も販売好調

東急リゾートが10月に開業する「京都鷹峯」は温泉から楽しむ紅葉も売り物(完成予想図)

長は「購入を決めるまでの時間が短くなっている」と話す。市場では売り希望が減っており、人気が施設の減少については、購入希望者が「わずかな差で買えなかった」という事例がいくつもあ

## 売り希望出ない銘柄も

新しい施設に買い替えたという需要もあり、販売は好調だ(販売促進グループリーダーの小沢陽子氏)といい、毎週末の見学会でそのまま成約に至るケースも少なくないという。

8月末からは流通市場での取引が活気づく時期に入る。6月から夏の間は施設を利用する人が多く、売り希望が減る。夏の利用が終わると同時に、10月ごろには施設の運営会社から来年分の年会費の納入案内が届き始める。この時期に会員権の保有者は売却を検討し始める。

東京市場は田安・株高傾向にある。会員権価格は当面は強含んで推移するとの見方が強い。このことも背景に会員権の保有者は需給の引き締めをみて、強気になっている。

## 景況感の改善追い風

リゾート会員権を買うのは富裕層に限らない。最近では定年前後のシニア層や会社員も増えている。2008年のリーマン・ショック後に長引いた景況の冷え込みで、施設の淘汰が進み「種類がある程度絞られ、わかりにくさが減った」と販売業者は指摘する。認知度も高まり、楽しみ方も広がっている。

### 富裕層以外に購入拡大

子や孫など3世代で使いたいという要望が目立つ。施設側も利用率向上

### 3世代での利用希望めだつ

ターでもある。市場で人気が高いのは長野県の軽井沢と蓼科高原だ。古くからの別荘地で避暑地として根強い人気がある。東急リゾートの「旧軽井沢」は売り希望がなかなか出ず、価格は770万円から高止まりする。

(大槻陽子)